

令和3年度 第1回 弥彦村学校運営協議会 議事録

1 開催日時

令和3年6月30日(水) 16:00 ~ 18:00

2 場 所

弥彦総合文化会館 小ホール

3 出席者

【委員】(順不同、敬称略)

宇田委員、藤澤委員、小柳委員、渡邊(晃)委員、武石委員、柏原委員、渡邊(真)委員、長谷川委員、高橋委員、三富委員、大山委員、古川委員、仲川委員、石黒委員、河井委員

【教育委員会】

林教育長

【事務局】5名

富田事務局員、酒井事務局員、阿部事務局員、鈴木事務局員、徳永事務局員

4 内 容

※開会前に各委員・事務局より自己紹介

(1) 開会

学校運営協議会がスタートして、3年目になる。今年度は委員の改選もあり、新たなメンバーが加わった。ご承諾いただいた委員のみなさまに感謝したい。

今年度から本格的に地域の力を学校に取り込んでいけるようにしていきたいと考えており、みなさまからも様々なご意見をいただきながら、弥彦村らしいCS(コミュニティ・スクール)づくりをしていきたい。

(2) 委嘱状交付

教育長より委員へ委嘱状が渡された。

(3) 議題

①会長及び副会長の選出

立候補者の有無について確認し、出席委員の誰からも立候補がなかったため、事務局より会長、副会長を推薦し、満場一致で承認された。

②部会の目的・役割について

事務局より、配布した資料により部会の設置目的や機能・役割等について説明した。

【質疑・応答】

質疑：委員それぞれに得意なことや詳しいことなどがあると思う。それを事務局に把握していただいて、本会の運営に役立ててほしいと思う。

回答：ぜひそうさせていただきたいと考えている。

③学校経営方針等について

ア 小学校の学校経営方針等について

小学校長より弥彦小学校の取り組みや現状についてプレゼンテーションを行った。説明に対する質疑・応答については下記のとおり。

【質疑・応答】

質疑：学校の方から積極的に地域に向けた発信等をしており、ありがたく思っている。教育雑誌等からも小中学校の連携の様子が伺え、うれしく思う。地域連携に対する姿勢が校務分掌からも伺える。

「学校経営の基本方針」に「◇地域に入り、子ども・保護者～」とあるが、今、「地域に入り」が難しい状況だと思う。具体的にどのようなことを考えているのかももう少し説明をしていただきたい。

回答：新型コロナウイルス対応は、感染症対策をしっかりとすることで、ある程度防げるということが様々な知見からわかってきた。そこで、一昨年度のように学校から地域に出かけていく活動はどんどん復活させている。また、村内など感染症のリスクが低い地域の方々から来ていただく場合も、受け入れるようにしている。県選挙管理委員会による模擬選挙など、声をかけていただいたところには、「ぜひ」と積極的に子どもたちの体験活動等に受け入れている。

質疑：1) 令和2年度学校評価報告書と令和3年度ランドデザインを見比べて、「あいさつをされたら返す児童」の目標を85%から80%に下げたように見受けられるが、意図を伺いたい。

2) まなびの教室とはどのようなものか。

3) 千葉県八街市のニュースがあったが、通学路の危険箇所の指導など、小学生の登下校時の安全確認はしているか。

回答：1) 希望としては、85%、90%に設定したいと思っている。ただ、「設定してダメだった…」となるよりは「80%を達成した！」というプラスの評価ができればと思い、80%に設定した。地域のみなさまの協力もあって、本当に良くなってきていると感じており、ありがたい。

2) 特別支援学級のことを弥彦小学校ではまなびの教室と呼称している。

3) 地区子ども会で子どもに向けた安全指導をはじめ、保護者にも伝えるようにしている。また、毎日なかなかできないが、年に数回、教職員が通学路に立って安全確認・指導も実施している。

意見：さきほどあいさつの話があったが、弥彦村社会教育委員の会の方でも、数年来あいさつ運動を盛り上げようという話をしている。今年は具体的に動き始めており、学校・保護者・地域からあいさつスローガンを募集し、チラシやポスターを作成して活動しようということにした。みなさまからもぜひご協力いただきたい。

イ 中学校の学校経営方針等について

中学校長より弥彦中学校の取り組みや現状についてプレゼンテーションを行った。説明に対する質疑・応答については下記のとおり。

【質疑・応答】

質疑：文科省の新学習指導要領の動画を拝見したが、この中で校長先生が強調したかった点をお伺いしたい。

回答：この協議会が存在する意味は、動画の最後に出てくる先生がおっしゃっていた、今求められている学校教育は、学校だけではなくて、保護者・地域の人と一緒にやっていかなければならないという点であり、それをお願いしたいということ。

質疑：1) 不登校問題は何十年も続く課題であり、本当に難しい問題だと感じている。不

登校については、地域が支援することが難しく、学校の中で対応していただくものなのかなと思う。最近では無理に登校しなくても良いという考えもあり、それについて、どのように考えているかお伺いしたい。

- 2)最近、ヤングケアラー※という言葉聞くが、それが不登校にも結び付いているのかなと思う面もあり、弥彦村でもそのような例があるのかお伺いしたい。
※一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされている（文科省HPより）

回答：1)その子が学校生活を本当に苦しいと感じているのであれば、無理に学校に来るよう強制はできないと思う。ただ、その子の「生きる力」を育てるということを考えたら、家やインターネットの中で過ごすだけでは、社会性はなかなか身につかないと考えている。だから学校に来てほしいと考えているし、そのための働きかけをしていきたい。

- 2)現在村にそういった例があるかどうか（調査・把握するのは）難しい。個人的にはそれが（不登校において）大きな問題になっているとは考えていない。

以上のとおり、小・中両校の学校経営方針の説明と質疑・応答を終え、会長より出席した委員に両校の経営方針について諮ったところ、満場の拍手をもって承認された。

④部会の打合せ

各部会に分かれ、部長の選任、今後の予定の確認、その他意見交換等を行った。

(4) 閉会

活発な意見・質問への感謝と、新たな体制で今後の学校と地域のより一層の連携が図られるよう、本会の運営に期待する旨を述べられた。

以上
(文責 事務局)